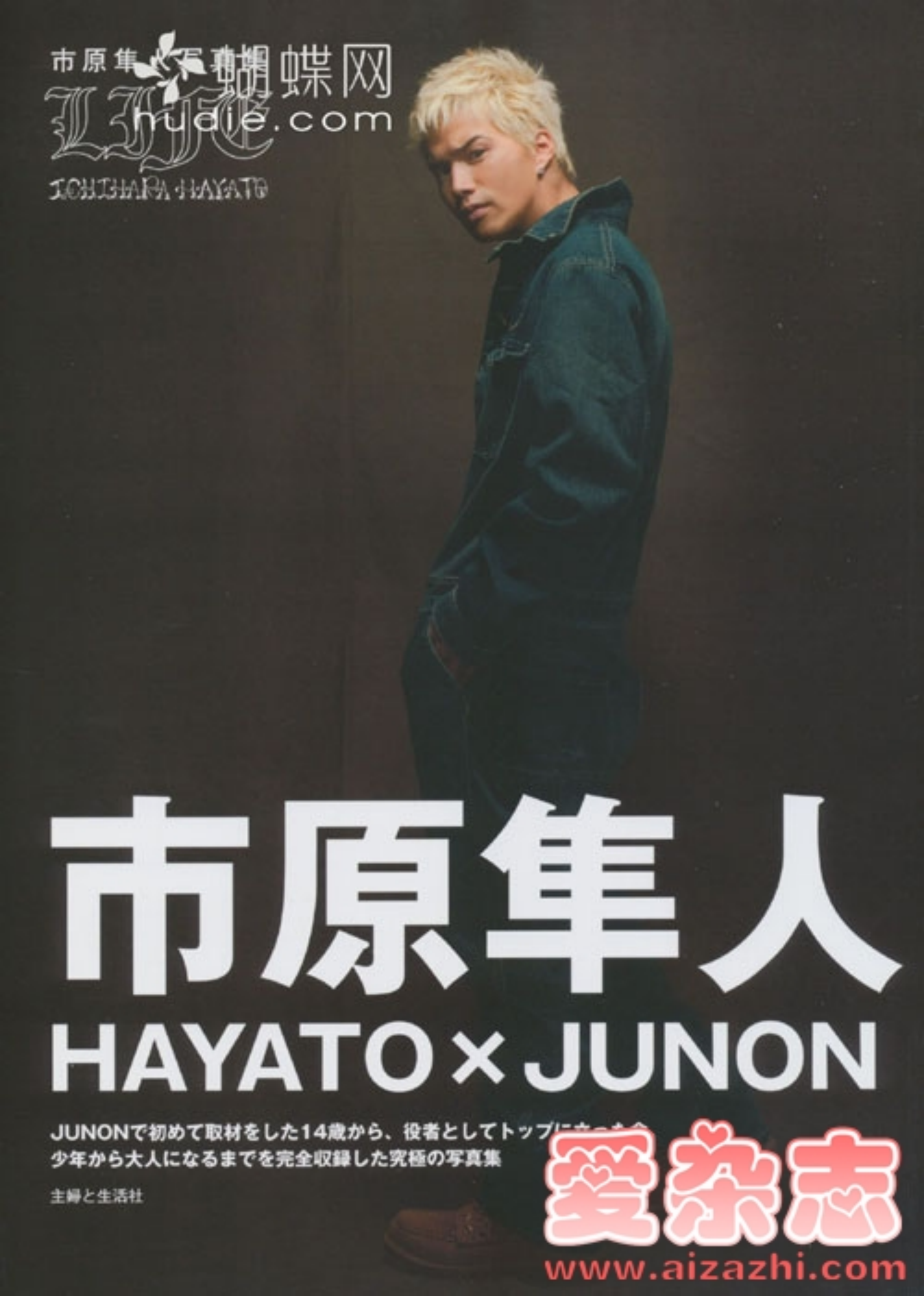


市原隼人写真集
LIFE
ICHIHARA HAYATO

市原隼人

HAYATO × JUNON

JUNONで初めて取材をした14歳から、役者としてトップに立った今
少年から大人になるまでを完全収録した究極の写真集

主婦と生活社
















Sou










2005/3













05 / 4


多摩川
国土交通省


多摩川



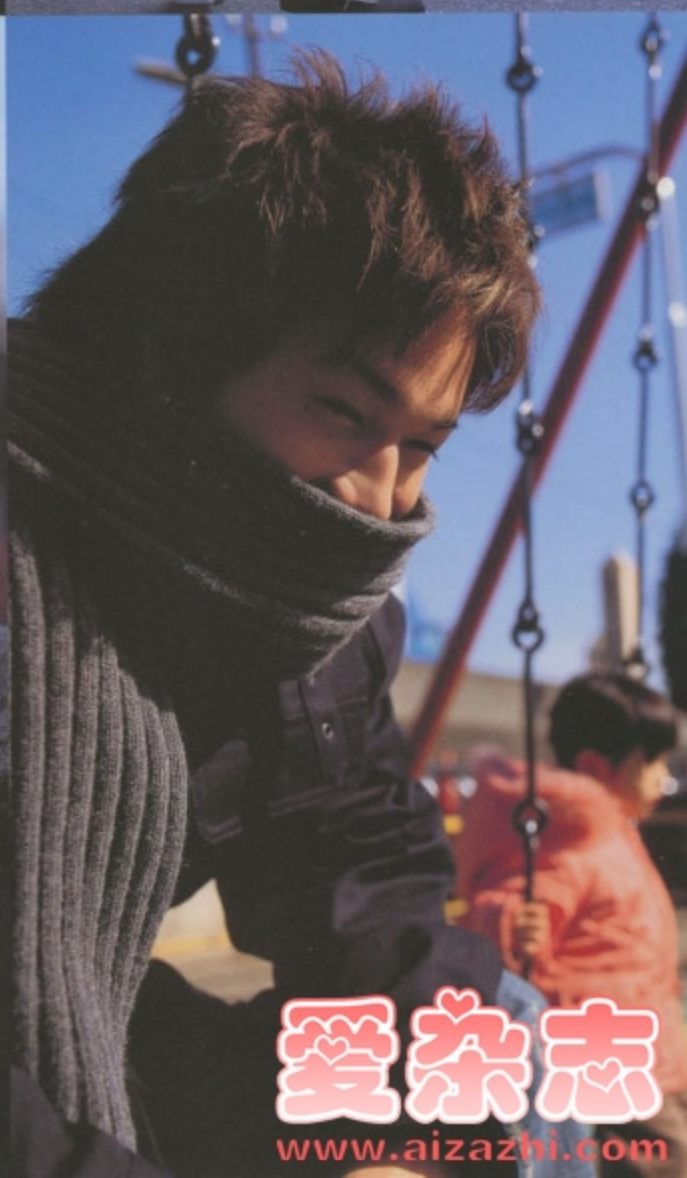


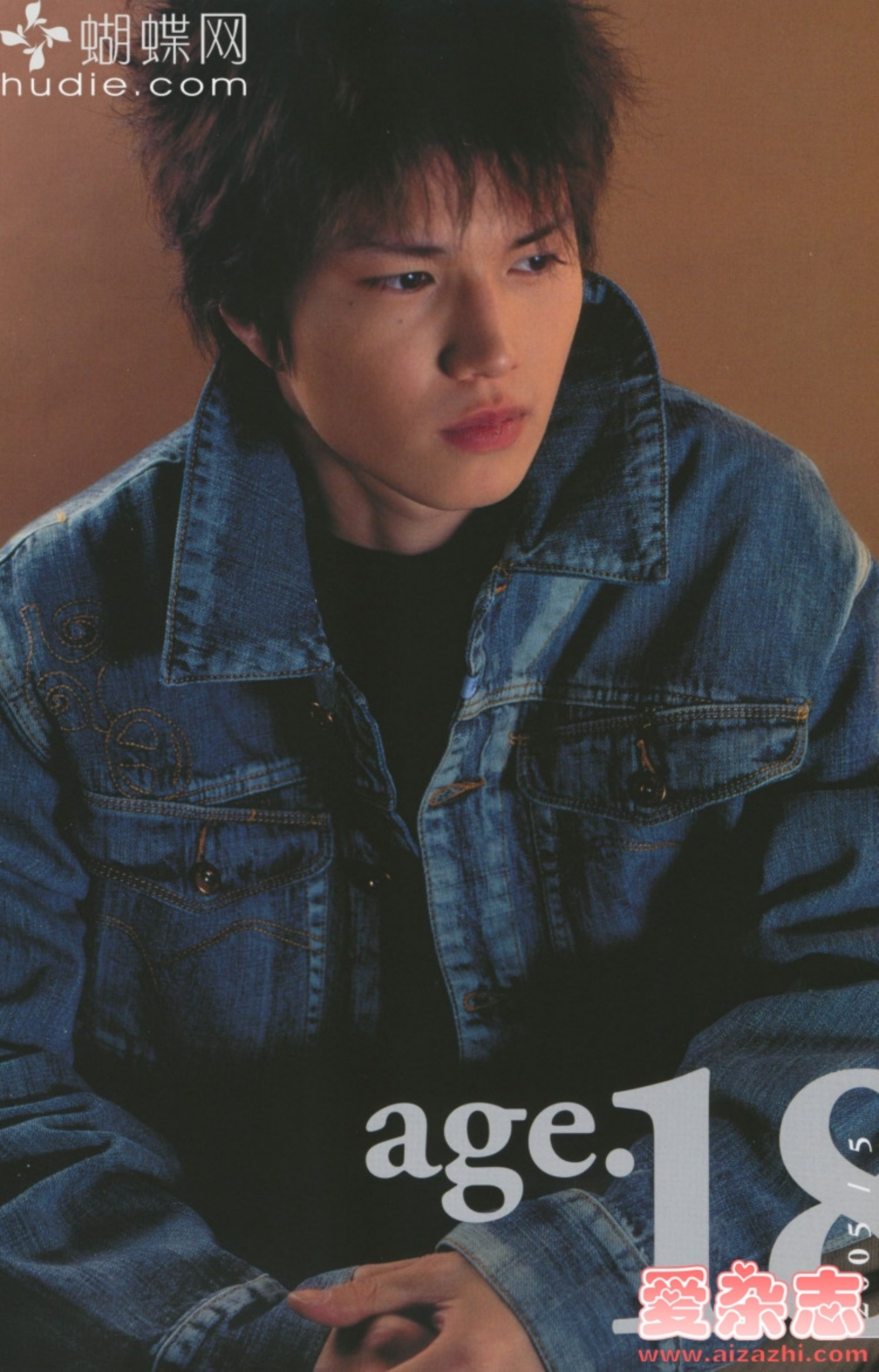





NIGHT PUB
優
原
生花店






age.18
2005/5

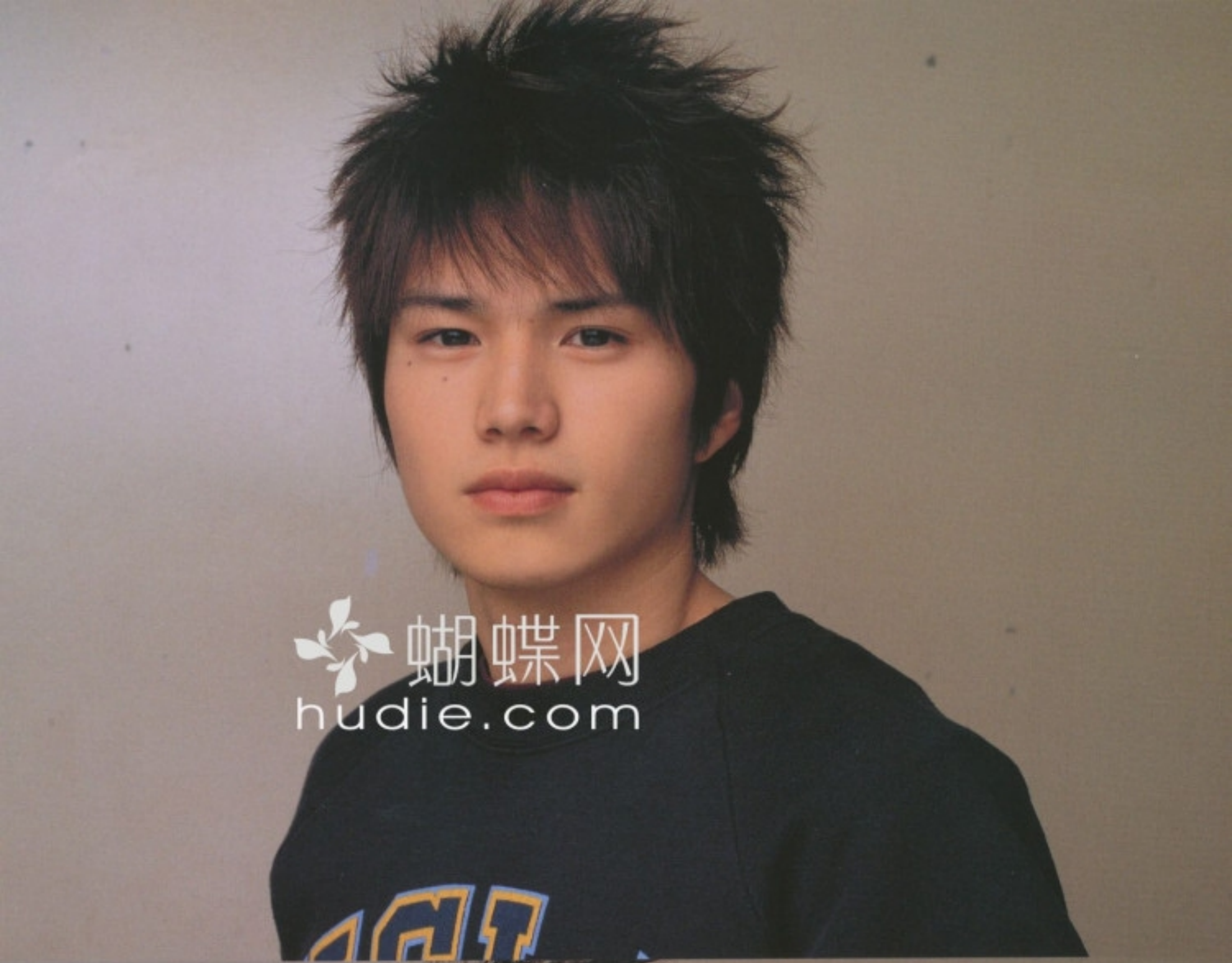














2005 / 6

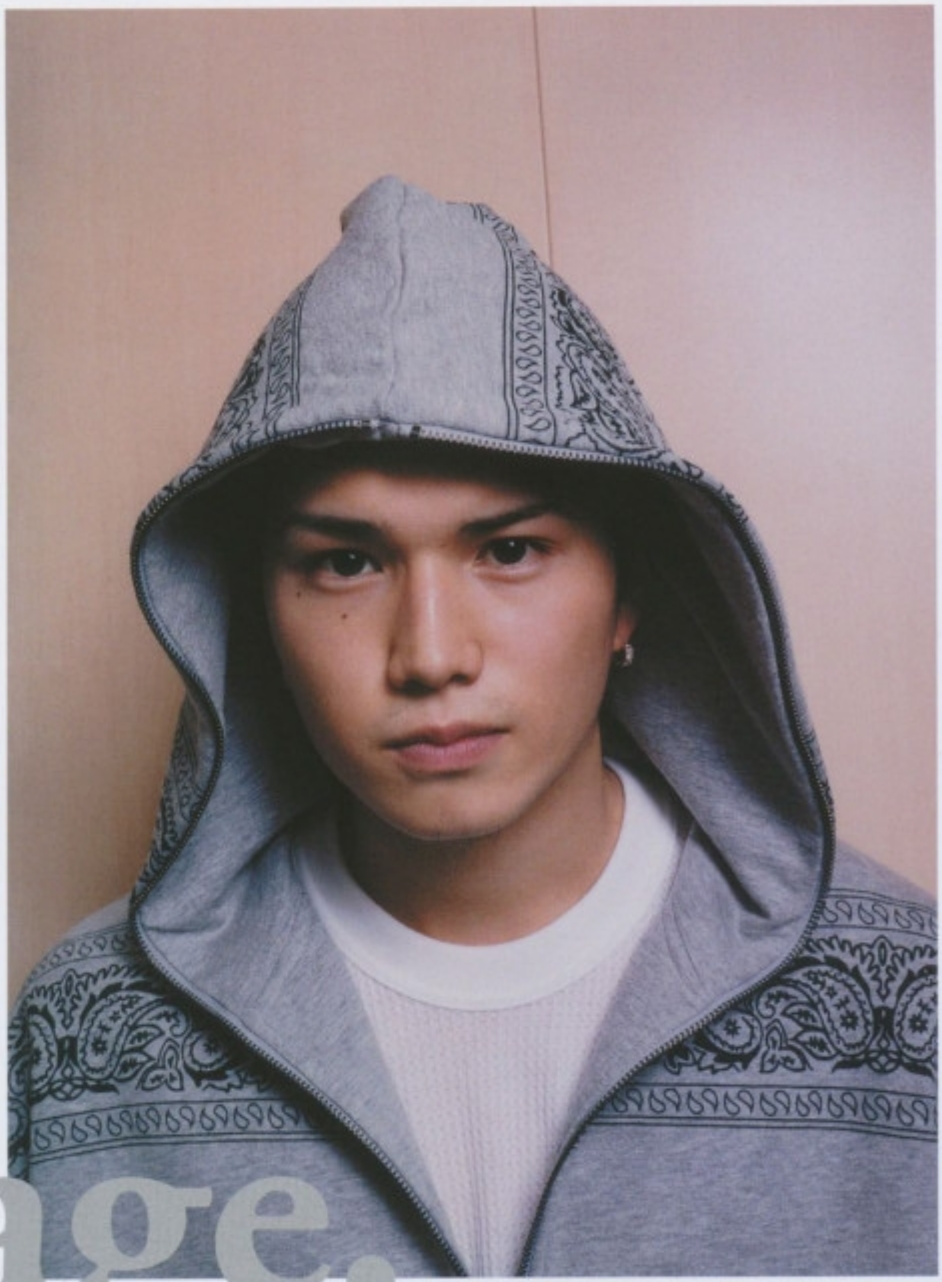


2005 / 7









age.

19

2007 / 1



2007/11


2007/2


age 21
08 / 5








inspiration
2008/8


inspiration






inspiration
Insp








FRANKLIN
MARSHALL

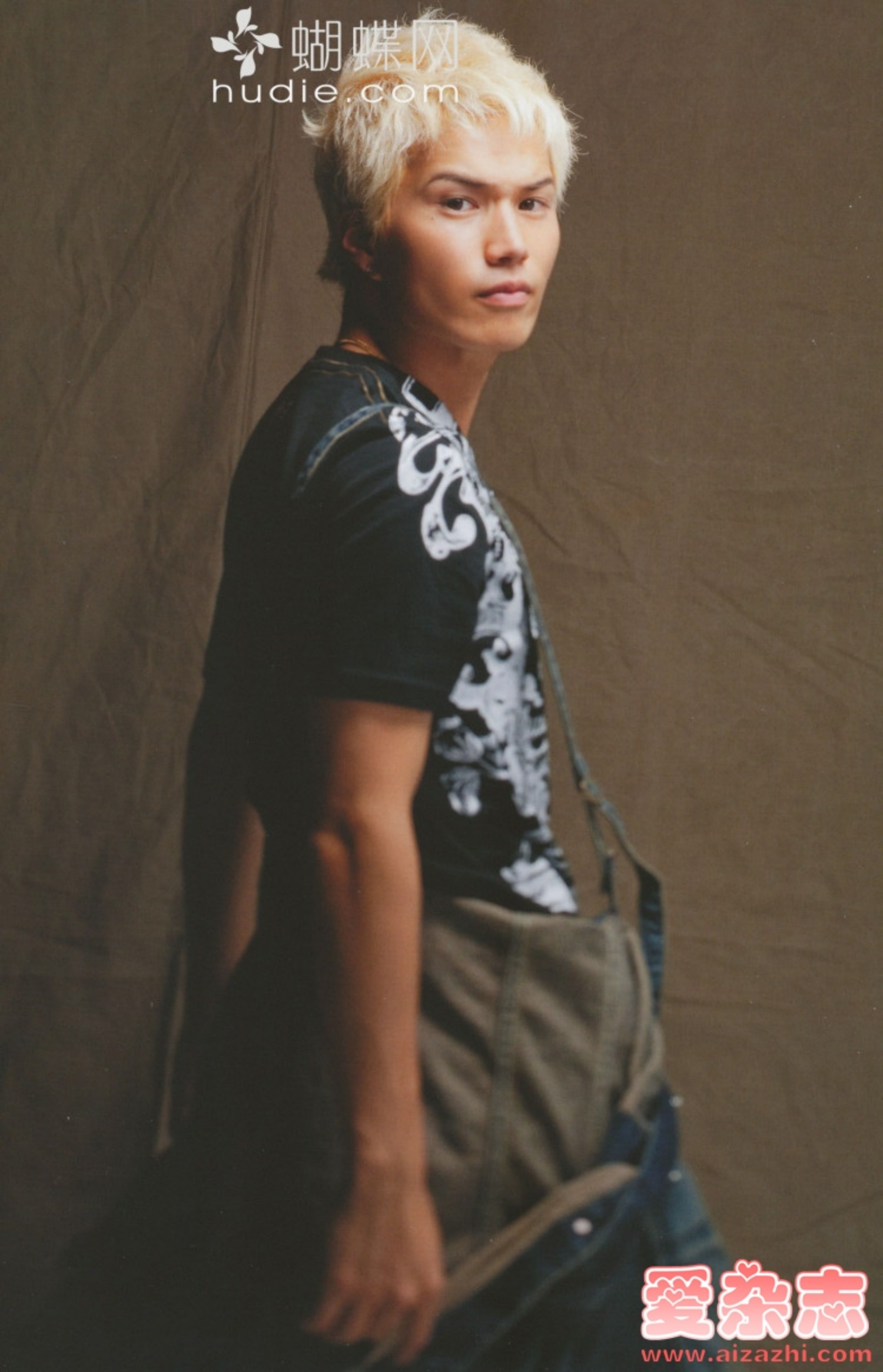


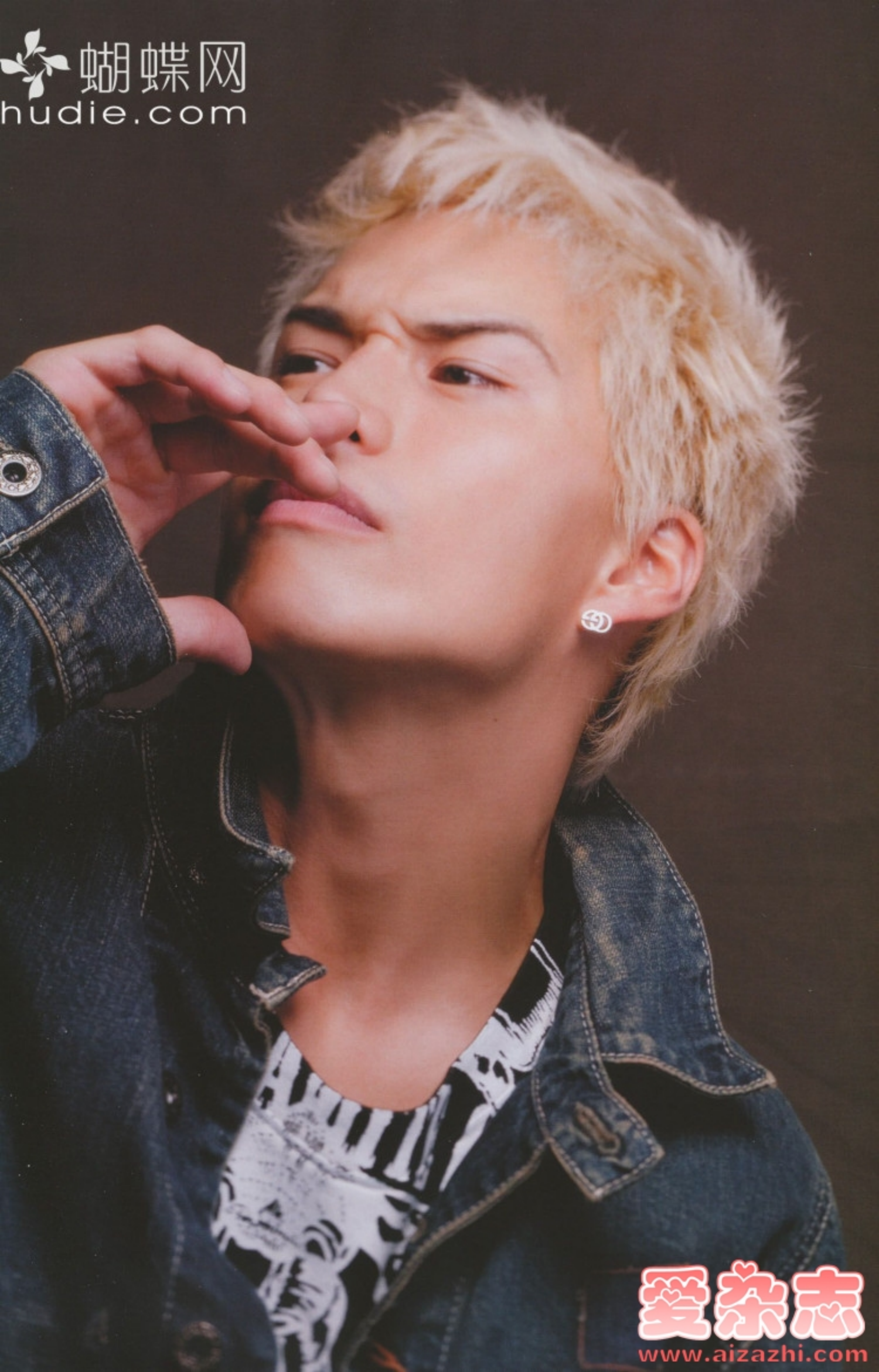

age.
22
09/6


adidas



2009/6














2009 / 10







2年後、5年後…何してるかな？…俺
…子供が出来てたりして（笑）…楽しみだ
まだ、22年程しか生きていないのにこれで色々とあった
もので、先の事を考えると胸が踊る
…ドキドキしているが、笑みが出る
というか、何があっても未来を楽しみにしていたいから、
自分で自分に希望を持たせたいから、わざと笑っているのかな？
常に思う事。
現地点は通過点であり、人生のピリオドを打つまで
未完成である。
だから、明日が楽しくなり、辛い事も、甘い事も経験として
プラスされる。
つまり、時間が流れる事に比例して、
“人生は前にしか進めないのだ。”
“何事も楽しんだ者勝ち。”
やらされた事があったとしても、それを自分でやりたい事に
変えちゃうぐらいのこだわりを持ってやる。
時間が過ぎればどっちにせよ今は終ってしまう、
なるようになってしまうのなら“今”を楽しんだ方がイイに決まってる。
…こんなにだいそれた事を言っても、自分も未完成で全て
ちゃんと出来ているか、不安になる。
でも、形にならなくてもいい。最初の1%をもつ事が大事で
一生かけて、自分なりに、ゆっくり自分を造っていこうと思う。
今、この手紙を書きながら、ふと思った。

…俺が墓まで、持って行けるものって何だろう？
人生を歩いて、振り返った時に今までの経験や思い出を
"絶景"として見る為の毎日の積み重ねかな？
かといって、そんなに毎日立ち止まって、振り向きたくはない
一年に一度ぐらい、振り返り、子供が積み木を重ねる様に
概念をゼロにして、真っすぐな気持ちで毎日を過ごして
いけたらイイなあと。
幼い頃は、トレードマークもなく、いつも怒られていた少年が
今、こうして"主役"をやらせて頂けるのは、本当に周りの方の
おかげだと思っています。
心から感謝したいです。有り難うございます。
これからも、見て頂いた方に楽しんで頂ける様に、表現者の道
に精進していきます。宜しく御願い致します。

そして、
don't give a fack ってな感じですかね（笑）

市原 隼人

age.14

2001年03月号
Photo:常山恵未



初めて登場したのは、主演映画『リリイ・シュシュのすべて』の取材で。14歳の初々しい少年の顔。JUNONまで出向いてくれての撮影なので、場所は会社近くのスレートの壁前です。衣装は私服。ブリティッシュfashionがよく似合っていて、その後の市原くんの髪型&私服の変貌ぶりは予想もできません。インタビューでは岩井俊二監督に抜擢された理由も納得の、自由でポジティヴな発言で、すでに大器の予感にあふれていました。

P003

age.15

2003年03月号
Photo:西村彩子(SELF:PSY'S)



早生まれなので、12月取材はもうすぐ16歳という時期。出演した映画『T.R.Y.』と『黄泉がえり』の公開に合わせての取材でした。『T.R.Y.』では主演の織田裕二さんの相棒で詐欺師の役。2か月間、ひとりで上海ロケに参加して、中国語のセリフも大変だったと話してくれました。撮影は、ビルの屋上。カメラに目線を合わせて手を組むポーズも、様になっていて。冬だというのに半袖のTシャツ、つんつんヘア+シンプルなピアスも効いています。

P004

age.16

2003年11月号
Photo:常山恵未



グ・スーヨン監督の話題作映画「偶然にも最悪な少年」に主演したとき。取材場所に指定されたホテルの壁に布を貼って、撮影しました。鬼才・グ監督との出会いはすごく刺激的だったらしく、現場に挑む役者としての気持ち、個性の大切さ、を語ってくれて。主演の市原くんも高い評価を得た映画でした。この頃は時計にも凝っていて、そのときによっていろいろ変わっていたような…。この日も、ヘアは絶妙のバランスでセットされています。

P005

2004年02月号
Photo:富井昌弘



連続ドラマ「ヤンキー母校に帰る」を撮影中の頃で、場所は…廊下の一角です(笑)。衣装は私服。いつもはシンプルなTシャツとかが多いのに、この日は凝ったデザインでした。ヘアもたぶん市原くんが自分で整えてくれたもの。髪はヤンキー役に取り組み中なので、思いっきり染めてます。2月号は恒例の"1年間を振り返る"企画に登場。年の初めから連ドラ「僕の生きる道」に入り、ドラマ4本、映画4本と大活躍した2003年を振り返ってくれました。

P006~007

2004年03月号
Photo:堤 隆繁
Stylist:川地大介/Hair&Make-up:中島康平(INFIS)



年頭の大企画「ブレーク特集」のトップに登場! 都内の公園にて。ニット帽+つなぎ、セーター+ジーンズ+マフラーの2パターンを着てくれました。ニット帽の下に手ぬぐいを巻いたのはさすがです。日向ぼっこをしていた野良猫が寄ってくると、頭をなでて優しい顔に。市原くんの動物好きぶりにスタッフもほのぼの。好きな食べ物はお寿司、特にマグロと戻りガツオが好物だと知ったのはこの取材で。"戻りガツオ"なんて、なかなか言えません。

P008~P011

age.17

04月号
堤 隆繁
小野和美(ポストファウンデーション)/Hair&Make-up:中島康平(INFIS)



真っ青な空の下、遊具相手にグルングルンと抜群の運動神経を発揮。市原くんにとっては幼い頃から遊んでいる多摩川緑地での撮影に、まるで子供の顔に! でも、衣装を白いダウンに着替えて葦の中に立つと、いや~ステキ! インタビューは撮影後、ロケバスの中で。何回か取材を重ねた後なので、市原くんもリラックス。好きな女の子のタイプや地元の友達が18人もいると話してくれたけど、矢継ぎ早の質問に名言をひとつ。「そんなに問いつめられても…」。

P012~P017

06月号
熊澤 透
小野和美(ポストファウンデーション)/Hair&Make-up:高橋幸一(オティエ)



場所は代官山。なんと、愛犬リックも特別参加! 人間の赤ちゃん用のかごに入れて、おしっこシートとおやつ持参で連れてきてくれました。撮影中も足元を離れず、顔を見上げるリック。友達の飼い犬が交通事故にあったばかりで、外ロケのとき「危ないんで、リードつけていいですか?」と市原くん。テーマが"美しい男"特集だったので、顔満載。長いまつ毛に注目してください。でも自身は、「ドゥーラグをかぶってるのが俺らしい」と言っています。

P018~P025

07月号
アライテツヤ



ドラマ『仔犬のワルツ』に出演していたときに、よみうりランドで撮影してきました。遊園地デートをテーマに、入口での待ち合わせから、ジェットコースター、観覧車、ゲームなど、定番のアトラクションで遊んでいるところを撮影。「ジェットコースターはあまり得意じゃないっす」と言いながら、撮影のために乗ってくれたり。最後にはこれまた定番のソフトクリームを食べて終了。「はじぃ」を連発していましたが、立派にデートをやりきってくれました!

P026~P027

08月号
西村彩子(SELF:PSY'S)



市原くんを一躍メジャーにしたドラマ『ウォーターボーイズ2』の撮影が開始した直後。日に焼けているのは、シンクロの練習も含めて真夏の空の下での撮影に、プールにと、一生懸命になっていたからです! ハードな練習だったようで、「水泳が得意だからできるんじゃないかと思ってたけど、シンクロはやってみたら難しい!」と悪戦苦闘の毎日だったよう。主演ドラマだからと意気込まず、自分のペースでお芝居していくのは今と変わらないところです。

P028

10月号
常山恵未、西村彩子(SELF:PSY'S)



またまた「ウォーターボーイズ2」に出演している時期。そして、さらに日に焼けております(笑)。この頃、ドラマも終盤にさしかかり、ものすっご~く忙しくて、分刻みで進行していくスケジュール。そんななかでも、市原くんは市原くんのまま。ニコニコと微笑みながら「おつかれさまっす」と迎えてくれました。ドラマは静岡県での撮影。しかも泊まりだったので、「地元の友達と遊びたい!」とよく言っていたのを覚えています。

P029

age. 18

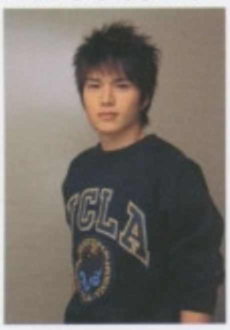
2005年05月号
Photo:林 十郎
Stylist:川地大介/Hair&Make-up:中島康平(INFIS)



珍しくスタジオ撮影です。4月から始まる日曜劇場「あいくるしい」に合わせての登場でした。ドラマを半年お休みしていた間に、眉毛も自然な形に戻っています。綾瀬はるかちゃんがお姉さん、神木隆之介くんが弟、市原くんは兄弟思いの長男で、お父さん役は大好きな竹中直人さん。私生活ではお姉さんはいても、下がいないので、弟ができて楽しかったのでは？　ジージャンのカットでは片側からのライトで男っぽく、ポロシャツは明るく撮影しました。

P070〜P073

2005年06月号
Photo:アライテツヤ



「あいくるしい」の熱血長男・真柴豪。まだまだドラマは続いています。豪はほんとにフツーの男の子なので、ファッションもカジュアル。役にダイブして、その撮影の間中は、オンもオフもなりきるのが、市原隼人。豪が着そうな、なんでもないアメリカンなトレーナーなら、袖を無造作にたくしあげての着こなしに、リアルがあります。インタビューはドラマにちなんで家族ネタ、赤ちゃんのときのラブリー写真も披露してくれて、大好評でした。

P074

2005年07月号
Photo:アライテツヤ



ドラマの収録も終盤。今回も豪流Tシャツの着こなしのお手本です。グレーの長袖Tにえんじの半袖を重ねて、写真には写っていないけれど、カーキのパンツをはいています。内容はこのドラマで家族になった父・竹中直人さんと、弟・神木隆之介くんとの鼎談。ホントの親子みたいだった3人の、抱き合ったり、つつき合ったり、胸が熱くなるような時間。ちなみに、4年後、このときの石丸プロデューサーは『ROOKIES』で市原くんとの再会を果たしています。

P075

2006年04月号
Photo:富井昌弘



映画「チェケラッチョ!!」で沖縄に滞在している市原くんを訪ねました。沖縄育ちの高校生たちが一念発起、ライヴを計画する青春ムービー。長期沖縄生活を満喫して、オフの日には、ソーメンチャンプルーを食べたり、堤防に寝て夕日を眺めていたらしい。それにしても、ビーチ近くの家で飼われている子犬の頭をなでる市原くんは、スーパーナチュラルな表情！ リックのことを思い出したのかな。沖縄といえど小雨模様の肌寒い日だから、ロングコートです。

P076〜P078

2004年12月号
Photo:堤 隆繁
Stylist:柚木一樹/Hair&Make-up:下田秀人



ドラマ「ウォーターボーイズ2」も終わり、長い間、自分の分身だった"泳吉"とお別れして、髪も切って眉毛も細くしています。この日、市原くんは怒濤の222Qに挑戦！ Q43「彼女ができたらイチャイチャする？」なんていう禁断の質問もあって(笑)、市原くんは思わず「ふ〜う…」。しかも衣装も3ポーズあって、しかも雨が降ってきてビニ傘さして、力こぶがギューッと入った取材になりました。場所は代官山、目黒川ぞいのあたりです。

P030〜P037

2005年01月号
Photo:小林ばく
Stylist:川地大介/Hair&Make-up:中島康平(INFIS)



ちょっとした小旅行でした。リックと一緒に江ノ島へ！ ふつうに散歩して、海岸を走って、江島神社まで登って、おみくじひいて、参道のお店をのぞいて。着ているスヌーピーのトレーナーは私服、市原くんの大好きなBLUEです。インタビューは海岸前の食堂で、遅めのお昼ごはんを食べながら。お寿司が好物の市原くんは"海鮮丼"、リックは持参のカリカリ。どんなシーンでも、リックをギュッと抱きしめる市原くんの父性に感動。秘蔵写真の数々です。

P038〜P053

2005年02月号
Photo:堤 隆繁
Stylist:小野和美(ポストファウンデーション)/Hair&Make-up:中島康平(INFI



場所は、すっかり紅葉した木々が美しい砧公園。凝ったキルティングの革ジャケットが似合ってます。2月号は恒例企画、ズラーッと並ぶBestStarsが"1年を振り返る"わけですが。市原くんにとっての1年は、「ウォーターボーイズ2」につきるようで、「朝起きて5分後には水の中にいた(笑)」。クランクアップでは大泣きしたようです。もうひとつの写真でアヒルを頭にのせている理由は、2005年が酉年だから。編集部のリクエストです。

P054〜P057

2005年03月号
Photo:井上佐由紀(スナッピンブッダ)
Stylist:小野和美(ポストファウンデーション)/Hair&Make-up:下田秀人



愛の花言葉付きの撮影でした。バラ、チューリップ、ムスカリ、ヒヤシンスなどなど、12の花を渡されて、市原くんは持ち方を考えながら、即座に変えていきます。その表現力の豊かさ！ ひとつとして、同じポーズはありません。インタビューは、読者の恋愛の悩みに市原くんが答えていくという内容。「つきあって3か月、彼がキスしてくれません」なんていう相談もよせられて。そんな女子の悩みに、即答返し。男子の気持ちをガッツリ教えてくれました。

P058〜P063

2005年04月号
Photo:西村彩子(SELF:PSY'S)
Stylist:小野和美(ポストファウンデーション)/Hair&Make-up:高橋幸一(オテ



市原くんが地元を愛しているのは、ファンなら知っていると思うけど。今でも"友達"は、中学からの友達18人のこと。お父さんとキャッチボールをした多摩川の土手、よく来ていた公園、駅前の商店街…。思い出しながら、冬のキリリとした空気を切って、自転車を走らせる。チャリが似合いすぎ！ 八百屋の店先で売っていた焼き芋をくわえている大きな写真は、市原くんのセレクトです。高校卒業をひかえた少年の表情に、キュンとしませんか？

P064〜

age.19

2007年01月号
Photo：堤 隆繁
Stylist：川地大介/Hair&Make-up：西岡達也（ビタミンズ）



久しぶりでした。約2年ぶり！ というのも、この間、市原くんは次から次へと映画に入っていました。「おはようっす！」と元気に入ってきた感じは今までと変わらないけど、ずいぶん大人になっていて。自ら「あの頃は俺、チャラかったスよね」とニコニコ。え、えーっ、チャラいんじゃなくて、無口だったんですけど…。このときは初めてのパーソナルフォトブック『びーす』についてのインタビュー。企画・編集にも参加して制作、熱い思いを語ってくれました。

P079～P080

2007年02月号
Photo：堤 隆繁
Stylist：川地大介/Hair&Make-up：西岡達也（ビタミンズ）



撮影場所は事務所近く。1年を振り返るにあたり、ササーッと外ロケを。歩くのが速っ！ アパートの前で撮ろうと言うと、すぐに動きだし、次々にポーズをとってくれました。まさに“表現者”。最後は前庭のゴミ置き場にあったネットをかぶったりしてくれました（驚）。2006年に公開された主演映画は3本、年頭からはひとり暮らしも始まって、家事も全部自分で。映画『天使の卵』の中でも見事なフライパンさばきを見せて、吹き替えなしの“メシ男子”ぶり！

P081

age.21

2008年05月号
Photo：富井昌弘
Stylist：小野和美（ポストファウンデーション）/Hair&Make-up：中島康平（INFIS）



1年3か月ぶりの登場。「イッチー今まで何してた？」なんてベタなタイトルをつけてしまいましたが、連ドラ出演が決定、これから大人気コミック『ROOKIES』に挑む意気込みがビシビシ伝わってきます。このドラマはニコガク野球部を舞台にしていることもあって、よく出てくる多摩川の土手は、そのまま市原くんにとって幼いときからの遊び場。運命の出会いです。その土手で撮影しながら、「ガチンコで絶対熱いものを作ります」と断言！

P082～P085

2008年09月号
Photo：アライテツヤ
Hair&Make-up：高橋幸一（オティエ）



このとき、全身全霊で取り組んだドラマ『ROOKIES』のクランクアップまであと2週間。5か月にわたった“安仁屋”はイコール市原隼人になっていました。多摩川の土手で撮影していると、練習中の野球少年たちが大騒ぎ。「安仁屋って役名で呼ばれることが多いけど、うれしい。俺もそれだけ役に入り込んでたから」とキッパリ。ドラマが終わってしまう寂しさも…。そして、自分の役者という仕事と真正面から向き合う新生・市原隼人がそこにいました。

P086～P093

2009年02月号
Photo：桑島智輝（SOLTEC）
Stylist：小野和美（ポストファウンデーション）/Hair&Make-up：中島康平（INFIS）



ドラマ『ROOKIES』が終了し、映画『ROOKIES』の撮影も間もなく終幕を迎えるころ、都内のスタジオで。さわやかなブルーのパーカと、大人っぽいブラックのレザージャケットで撮影した、恒例の1年を振り返る企画に登場。この年、市原くんはドラマ以外に映画でも大活躍で、『ネガティブハッピー・チェーンソーエッヂ』『ぼくたちと駐在さんの700日戦争』『神様のパズル』が公開されたのです。さらにはベストドレッサー賞受賞と超超超多忙な年でした。

P094～P095

age.22

06月号
アライテツヤ
ake-up：西岡達也（ビタミンズ）



映画『ROOKIES』の公開タイミングに合わせて、ニコガク野球部でバッテリーを組んでいた高岡蒼甫くんとの対談取材。安仁屋のロン毛から一変、超短髪でカラーも明るくなった市原くんです。取材は都内のスタジオで行われたのですが、「蒼くん」「隼人」とお互いを呼び合う様子がふたりの関係性を物語っていて。約1年間、同じ空気を吸ってきたふたりの息は、何もかもぴったりでした。男の友情っていいなぁと心からうらやましくなる、そんな取材です。

P096～P097

09月号
アライテツヤ
小野和美（ポストファウンデーション）/Hair&Make-up：高橋幸一（オティエ）



主演ドラマ『猿ロック』の放送開始直前に都内スタジオで撮影。髪の毛を金パツにしての登場に、思わずビックリ！（もちろん、役のためであります。ドラマでは銀パツでした）撮影では、爆音で洋楽が流れるなか、軽快なステップで踊るようにカメラの前に立つ市原くんの存在感に圧倒されました。「よしっ！」と大きな声をかけていたのも印象的。ドラマにかける意気込み、ハンパねぇっす！“サル”に夢中になっている市原くんを100％感じた取材でした。

P098～P101

10月号
小林ばく
小野和美（ポストファウンデーション）/Hair&Make-up：高橋幸一（オティエ）



自らを“表現者”と呼ぶ市原くん。この撮影もまさに、カメラの前でいろいろな市原くんを“表現”してくれました。『猿ロック』の撮影中で、多忙な中の取材。この写真集のためのインタビューもあったりと、とにかくバタバタした取材になってしまっても、いつもと同じ笑顔をずっと見せてくれる。それは、初めて会った14歳から変わらないところです。これからもきっと、まっすぐ前だけを見て全速力で駆け抜けていく市原くん。その情熱は、最高です！

P102～P105

市原隼人が振り返る9年間と今

——今回の「LIFE」制作にあたって、14歳から現在に至るまでの「JUNON」で撮影した膨大な写真の中から、市原くん自らがセレクトしてくれたものもあるわけだけど、あらためて、どんな感想を持ちましたか?

「懐かしいなぁっていうのが一番。ホントに全部が懐かしい」

——その当時のことを思い出す?

「ちょいちょい、です。普段は、つねに先のことが頭にあるから、あんまり振り返らないですね。でも、写真を見ると、だいたい全部覚えてます。江ノ島に行ったこととか。中でも地元の多摩川辺りで撮った写真が、めっちゃ多いですね(笑)。あとは、服装とか髪型とか、今見ると恥ずかしいのも、ちょいちょい(笑)。でも、べつに出したくないと思いたくないです」

——当時は、好きだった服だから?

「うん、私服もいっぱいある」

——お気に入りのパンツをどうしてもはきたくて、洗濯して乾かないまま持ってきたこともあるし(笑)。

「そうそう! 乾いてなかった(笑)。あ! 今日もそのパンツだ(笑)。あと、リック(市原くんの愛犬)と撮ったのも懐かしいなぁ」

——リックは元気ですか?

「元気です、元気です! 俺が実家に帰ると、相変わらず、うれションしてます(笑)。JUNONで撮影したときは、今よりぜんぜんちっちゃいですね。今、いくつだろう? あれ? 3歳?4歳?…知っとかねぇと、俺!(笑)」

——JUNONの撮影は、いつもどんなふうに思ってた?

「"俺、アイドルじゃねぇし、JUNONとか出て、いいのかなぁ"って(笑)。で、自分の笑顔の写真を見ると、気持ち悪くなって"偽善者じゃねぇか!!"って(笑)」

——自分の顔もずいぶん変わったと思う?

「どうだろう…。気持ちや遊び方は、14歳のときからぜんぜん変わってないですけどね。ただ、歳をとるにつれて自分の中に情報がたくさん増えて、モノの見方が変わってきちゃう自分がすごいイヤっす」

——10代のころは役者をやめてもいいから、ヘアメークの仕事をしたいって言ってたけど。

「あぁ、なっちぃ～(笑)。今でも、髪の毛は全部自分でやるし。役の衣装も髪型も、自分で案を出すようになったし。こだわりはどんどん増えてくる。そこはわがままです。ただ、今はもう、役者をやれるなら、一生やっていきたいなって思ってます」

——そう思えるようになったのはいつごろ?

「それは最近ですね。だんだん時間を踏んでいくごとに、見ていただける人の存在を感じるようになって。いただいた手紙とかを読むたびに"わぁ、やべぇ"って、バカみたいにキュンキュン、キュンキュンしてくる自分がいて"ちゃんとやんなきゃ!"と思う。応援してくれる人の気持ちはデカいですね。たとえば、自分がガンなのに"隼人くんの映画を見ると頑張れるんですよ"とか、この前も関西で応援してくれてた人が亡くなられたんだけど、闘病生活の日記の一番最後に"隼人くん、『ROOKIES』公開おめでとう。これからの芝居向上アップ願う"って書いてくれてたって。そんなの知ったら、やっぱ俺、引くに引けねぇなって。そんなこと言われて先に逝かれちゃったら、残されたものはちゃんと追って行かなきゃいけないし。そんなんで、現場でダラダラ過ごしてたら、俺だったらそんなヤツ、ひっぱたきたくなっちゃう。せっかく芝居という、バカみたいにピュアになれる場所をもらったんだから、なんでもいい、ちっちゃなミジンコみたいな力でもいいから、そういう誰かの力になれたらいいなぁって」

——では、市原くんのことをもっと知りたいので、YES・NOの質問をします。まず、市原くんにとって"したいこと、したくないこと"とは?

「したいことは"自分が今までやってないこと"は全部してみたいな。したくないことは"やらされてること"かな。ただ、やらされたとしても、それを自分で"やりたい"ほうに持って行くんです。"気がついたら相手のペースに乗ってた"っていうんじゃなくて、自分の気持ちを整理して、一歩引いてまわりの環境を見て、わざと相手のペースに乗って、それを楽しめる自分を作る。そうすれば、全部がもっと良くなる気がするんです。ちゃんと自分なりのビジョンがあって、それに乗っかったら、もっとこうしたいっていうハングリー精神が出てきて、それがパワーになるから」

——"うれしいこと、うれしくないこと"は?

「うれしいことは、なんだろうな。まわりが笑ってる顔を見てるのがうれしいです。うれしくないことは…う～ん…むじぃなぁ。うれしくないことの中でも、ちょっとしたうれしさを発見するので、うれしくないことはない(笑)。つねにポジティブ(笑)」

——"大切なものとどうでもいいもの"は?

「どうでもいいものは、ないんですね。で、大事なもんは、目に見えないもんも全部…全部だよなぁ。目に見えない、人と人との間にあるもんでも、人とモノの間にあるもんでも、経験でも時間でも、全部」

——"好きな時間と嫌いな時間"は?

「好きな時間は、ちゃんと自分のビジョンが見えて、ちょっとしたストイックな自分が出てくるときは楽しいですね。嫌いな時間は、整理がついてないまんま、カラダが動いてる、頭の中も動いてる…っていうのは嫌いです」

——音楽を聴いてる時間も好きでしょう?

「大好きです。音楽がなきゃ自分がいないし、音楽で笑えるし、泣けるし、落ち込むし」

——"大笑いするときと涙するとき"は?

「最近、大笑いしたのは…、あ、でもそれはあんまり言いたくないなぁ(笑)。俺の部屋で寝てた友達の服の中に、ゴキブリが入ってったときは大笑いしちゃった。声も出なかったもん(笑)。助けてやろうと思ったけど、友達に言ったらきっとパニックになるんじゃないかと思って(笑)、首のところから入っていくのをそっと見守って、出てきたゴキブリを退治しました(笑)。涙するときは、まわりが悲しんでるときかな。あとは、まわりがいなくなっちゃうときも」

——今の市原隼人を作ってきたものは?

「まわりの人、全部ですね。いろんな場所で出会う人、全部。JUNONとかもそうだし。いろんな人の考え方や意見を聞いてる中で自分が確立してきたのかなぁって」

——今も昔も変わらずに大切にしてること、市原隼人の軸になってることは?

「自分のベースは地元じゃないかなぁ。仲間、家族」

——この写真集を見て家族はなんて言うと思う?

「母ちゃんは、買って飾っときますね、絶対。"いいアルバムじゃないの"みたいな感じで(笑)」

——確かにアルバムのようでもある?(笑)

「うん。全部楽しかったです、ホント」

——我ながら成長したなって思う?

「いや、一生未完成のままでいたいから。今もぜんぜん成長の途中。"アイツってこういうヤツだよね"って、死んでから言われるのならいいけど、今はまだ言われたくなくて。つねにどんどんいろんな自分が出てくるし、もっと新しい自分を見てみたいです」



Cover photo：アライテツヤ

Writer：相川由美（インタビュー）
Designer：阿萬智博、片岡彩子（阿萬企画）
Printing Director：加藤剛直（DNPメディア・アート）
Editor：平口山幸代、阿部玲子、内山 愛

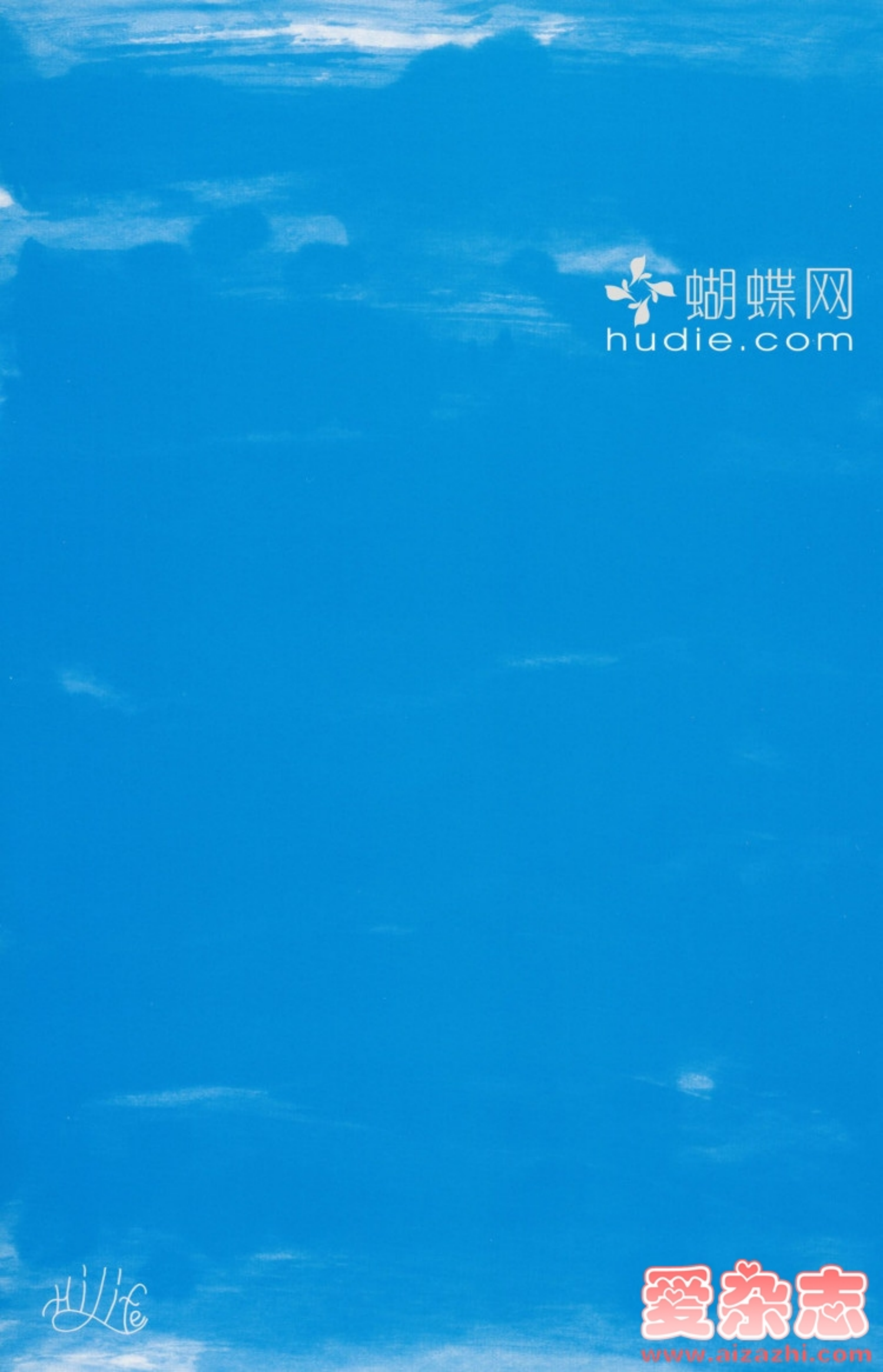
Artist Management：STARDUST PROMOTION Inc.

市原隼人写真集　HAYATO×JUNON　LIFE
2009年11月2日　第1刷発行

編集人：石田由美
発行人：伊藤 仁
発行所：株式会社 主婦と生活社

〒104-8357　東京都中央区京橋3-5-7
tel.03-3563-5121（販売部）
tel.03-3563-5132（編集部）
印刷所：大日本印刷株式会社
製本所：株式会社 若林製本工場

ISBN 978-4-391-13823-8



4391138238

0076020001

978-4-391-13823-8

5 ¥2000E

と生活社

: 本体 2000円 + 税

